



漂着生物を探しに 浜を歩いてみよう

海辺の自然観察といえば夏をイメージするかもしれませんが、漂着物探しは一年中楽しめます。特に日本海側では、冬がおすすめ。さまざまな漂着物のうち、今回は漂着する生きものの観察について紹介します。



なかにしひろき
中西弘樹

長崎大学教育学部教授・
漂着物学会会長

東日本大震災による津波は、城壁のような堤防を破壊し、集落までも飲み込んでしまいました。今更ながら自然の力に驚くとともに、人もほかの動物と同じく自然の中で生きられないことを思い知らされました。津波で飲み込まれ、がれきとなった漂着物は、北太平洋海流によって東へと運ばれています。海流は巨大なベルトコンベアーのごとく、あらゆる浮遊物を運んでいるのです。

日本列島沿いにも大きな海流があります。世界の二大暖流のひとつである黒潮は、熱帯の海域からさまざまなものを運び、その一部は日本の海岸に打ち上げられます。熱帯や亜熱帯の海域に生息し、浮遊生活をする生物は、黒潮によって運ばれます。黒潮が枝分かれした対馬暖流により、ギンカクラゲなどのように北海道まで運ばれるものもあります。

強風翌日の砂浜が観察日和

遠くから運ばれてきた漂着生物を探すコツは、漂着物の中に、海底火山の噴出物と考えられる軽石、外国製のペットボトルや使い捨てライターなど、外洋から流れてきたものがあるかどうかを見ます。

どんな海岸に流れ着きやすいかも観察してみてください。砂浜は砂が

堆積しやすいのと同じく、漂着物も打ち上げられやすい海岸です。一方、磯などは侵食される海岸で漂着物が少なめです。沿岸流が変化する海岸も観察に適した場所。岬や、単調な長い砂浜の両端は沿岸流が変わりやすいので、ぜひ探してみましよう。漂着生物は年間を通して見られますが、日本海側では冬の季節風が吹く時期に、太平洋側は台風の後などに多く見られます。日本海側ではハリセンボンのように、冬に海水温が低下すると死亡して季節風に吹き寄せられて漂着する亜熱帯性の魚類などもあります。また、しばしば集団で

浮遊する動物が一度に多量に流れ着くこともあります。カツオノエボシ、ルリガイなどがその代表的なものです。大きさと数を調べると、集団の構造が分かります。例えば大小2グループに分けられる場合は2世代の集団であることが読み取れます。熱帯植物の果実や種子も流れてきます。これらの植物は海流で生育地が広がる、海流散布植物です。果実や種子はいつまでも浮き続けられるように、繊維質やコルク質の果皮で覆われていたり、種皮が硬く、中が空室となっています。そのような構造を調べるのも面白いでしょう。

鯨浜（長崎県）に大量に打ちあがったクリイロカメガイ。世界の熱帯から温帯海域に浮遊生活を7mm、しばしば海面が赤茶色になるほど多量に漂流する。



海流と風と漂着物の関係

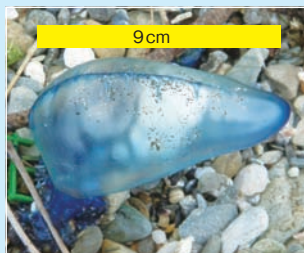
見つけてみたい漂着生物

大きさの目安

もっと小さいものが見つかることもあるが、大きめのものに合わせて記載。

青もの3兄弟

クラゲの仲間。この3種はいずれも暖かい海で繁殖していて、しばしば多量に漂着していることがある。体色は、青味がかった色。海の中では保護色となっていると考えられる。触手に毒があるので、漂着したばかりのものには触らない。



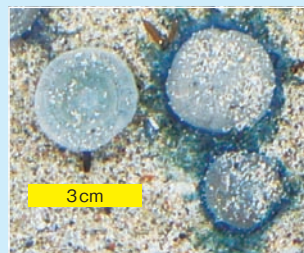
カツノエボシ

多くの個体が集まってひとつの体(群体)をつくる生物として知られる。本体の上面には数cmの半透明で烏帽子形の浮きぶくろ(浮嚢)を持ち、その下に20cmほど青紫色の群体が管状に垂れる。



カツノカンムリ

大きいもので長径5cmほどの楕円形の本体の上に三角体と呼ばれる薄い半透明の帆をたてた形をしている。この帆に風を受けて水面をウインドサーフィンのように移動するものと思われる。



ギンカクラゲ

直径3cmほどの円盤状で、周囲に青紫色の糸状の感触体を取り巻いている。多量に漂着し、波打ち際近くが青色に見えることがある。漂着して時間が経つと、円盤状の本体だけになる。

アワを吹く浮遊貝

ルリガイ

漂着したばかりだと、ピンクがかった泡を出している。泡(浮嚢)にぶらさがって浮遊生活をしている。しばしば多量に漂着。



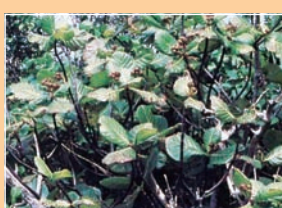
浮嚢(ふのう)

黒潮からの贈り物。贈り主は誰?

贈り物と贈り主を線で結ぼう。答えは43ページをご覧ください。



ゴバンノアシ (サガリバナ科)



モモタマナ (シクンシ科)



モダマ (マメ科)

殻を持つタコ・イカの仲間 (頭足類)

アオイガイ

薄いプラスチックのような殻を持ち、大きさは2cmから20cmぐらいの大きなものまで、さまざま。打ち上がったものはたいていどこか壊れている。生きている時は、殻を自分で修理しているようで、殻をよく見ると修理した跡があるものがある。



人魚の財布

トラザメの卵殻

中に1個の卵が入っており「人魚の財布」と呼ばれている。漂着したものは多くがすでに孵化しており、空(殻?)の財布。



自然を守って60年 日本自然保護協会 (NACS-J) 会員募集中!

NACS-Jについてのお問い合わせは TEL: 03-3553-4101 Eメール: nature@nacsj.or.jp

このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております(商用利用不可)。カラーページは、NACS-Jウェブサイト
の<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kansatsu/>からPDFファイルがダウンロードできます。自然観察会などでご利用ください。